

# 株式会社 メディカル・コア 店舗紹介



本社：福島県伊達市沢田7-51  
<http://www.futaba-ph.co.jp/>



★ふたば薬局 北五老内店（眼科）



★ふたば薬局 藤田店（総合病院）



★ふたば薬局 保原店（内科）



★ふたば薬局 笹谷店（内科&小児科）

# はじめに

近年、医薬分業率・薬局数の増加に伴い、地域における保健支援拠点として、国民の健康増進、健康管理に対する薬局・薬剤師への期待が高まっている。  
そして、薬剤師職能の中でも、医薬品適正使用の確保のために行われる疑義照会は、医薬分業の中核を担う職能である。

そこで、医薬分業に対する薬局機能の在り方を検討することを目的として、疑義照会の実施状況を調査した。

また、疑義照会内容の経時的変化を分析し、薬剤師職能の変化を考察した。

# 調査方法

ふたば薬局全店舗（4店舗）において、薬歴と共に管理している疑義照会報告書を基に、疑義照会の実施状況を調査した。  
 また、疑義照会内容の経時的変化を分析するために、調査対象期間は、H19.4～H20.3（以下；H19）とH24.4～H25.3（以下；H24）の2期間とした。

## 疑義照会報告書

## 調査データベース（Excel）

**疑義照会報告書**

平成 年 月 日

照会先医療機関 \_\_\_\_\_

主治医 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_

患者氏名 \_\_\_\_\_ TSH . .

照会方法      電話・直接・FAX

照会内容

回答者：主治医・看護師・薬剤師  
事務・その他 \_\_\_\_\_

担当薬剤師 \_\_\_\_\_



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	日付	性	年齢	診療科	処方	剤型	検査	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方	処方
2	4.9	M	6	小児科															
3	4.12	M	7	内科															
4	4.13	F	59	眼科															
5	4.16	M	64	内科															
6	4.17	F	10	小児科															
7	4.19	M	65	整形外科															
8	4.20	F	5	小児科															
9	4.24	M	65	内科															
10	4.26	F	4	小児科															
11	5.2	F	37	内科															
12	5.8	M	10	小児科															
13	5.10	M	5	小児科															
14	5.11	M	65	脳外科															
15	5.11	M	65	脳外科															
16	5.6	M	60	内科															
17	5.8	F	5	小児科															
18	5.9	F	59	眼科															
19	5.11	M	50	内科															
20	5.13	F	33	小児科															
21	5.17	F	12	小児科															
22	5.19	M	50	内科															
23	5.19	M	10	小児科															
24	5.21	F	29	内科															
25	5.22	F	65	内科															
26	5.28	F	50	内科															
27	5.4	M	68	内科															
28	5.23	M	65	消化器科															
29	5.23	M	85	眼科															
30	5.23	M	29	内科															
31	5.2	M	62	内科															
32	5.3	M	49	内科															
33	5.6	F	75	内科															
34	5.10	F	3	小児科															
35	5.21	F	30	内科															

H19,H24における疑義照会報告書を調査データベースに集約

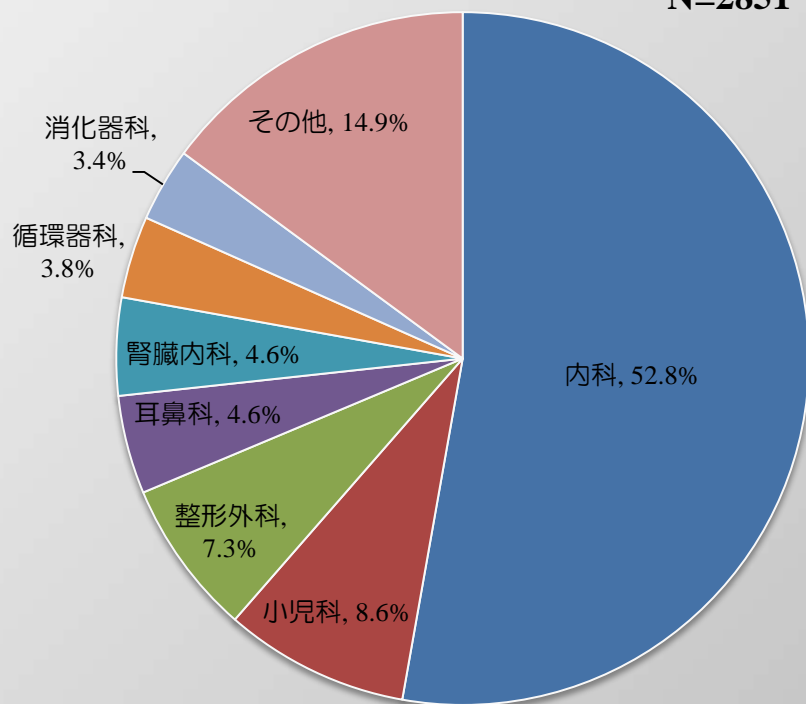
# 疑義照会の対象となった患者背景

	男 (%)	女 (%)	平均年齢
H24	43.2%	56.8%	62.75
H19	43.3%	56.7%	63.03

疑義照会の対象となった患者の性別は、女性の方が割合的に多かった。  
H19とH24では、男女比、平均年齢、共に大きな差はなかった。

疑義照会の対象となった診療科(H24,H19合算)

N=2851



疑義照会の対象となった診療科では、内科が最も多く52.8%であった。  
次いで、小児科(8.6%)、整形外科(7.3%)という結果となった。(H24,H19合算)

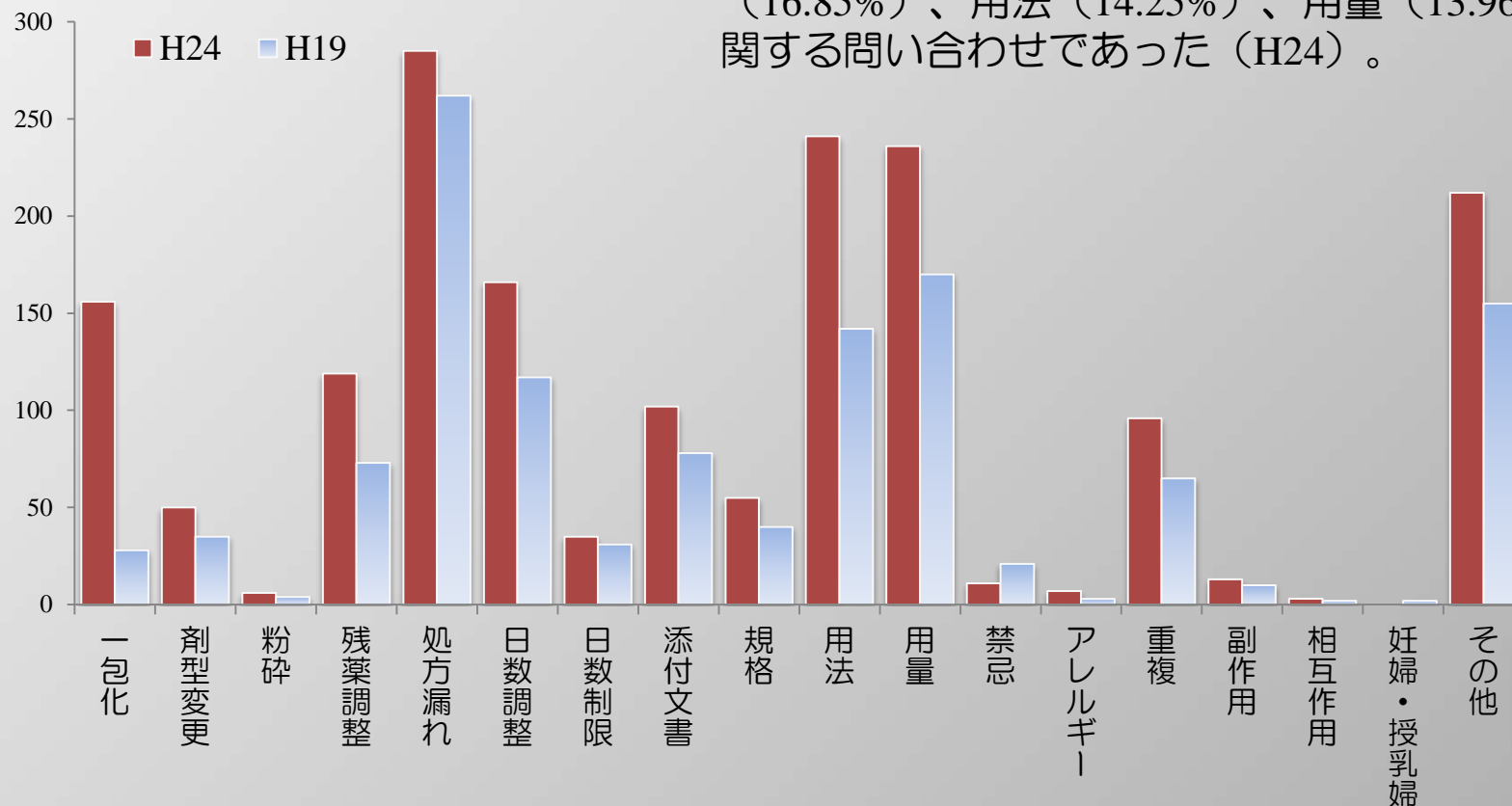
# H19,H24における疑義照会件数

処方ベースにおける疑義照会実施割合は、H19,H24でそれぞれ1.13%,1.63%\*であった。

	疑義照会総件数	疑義照会割合
H24	1691	1.63%
H19	1160	1.13%

\*平成22年薬剤服用歴の活用、疑義照会実態調査（日本薬剤師会）によれば、疑義照会の発生割合は、処方ベースで3.15%であった。

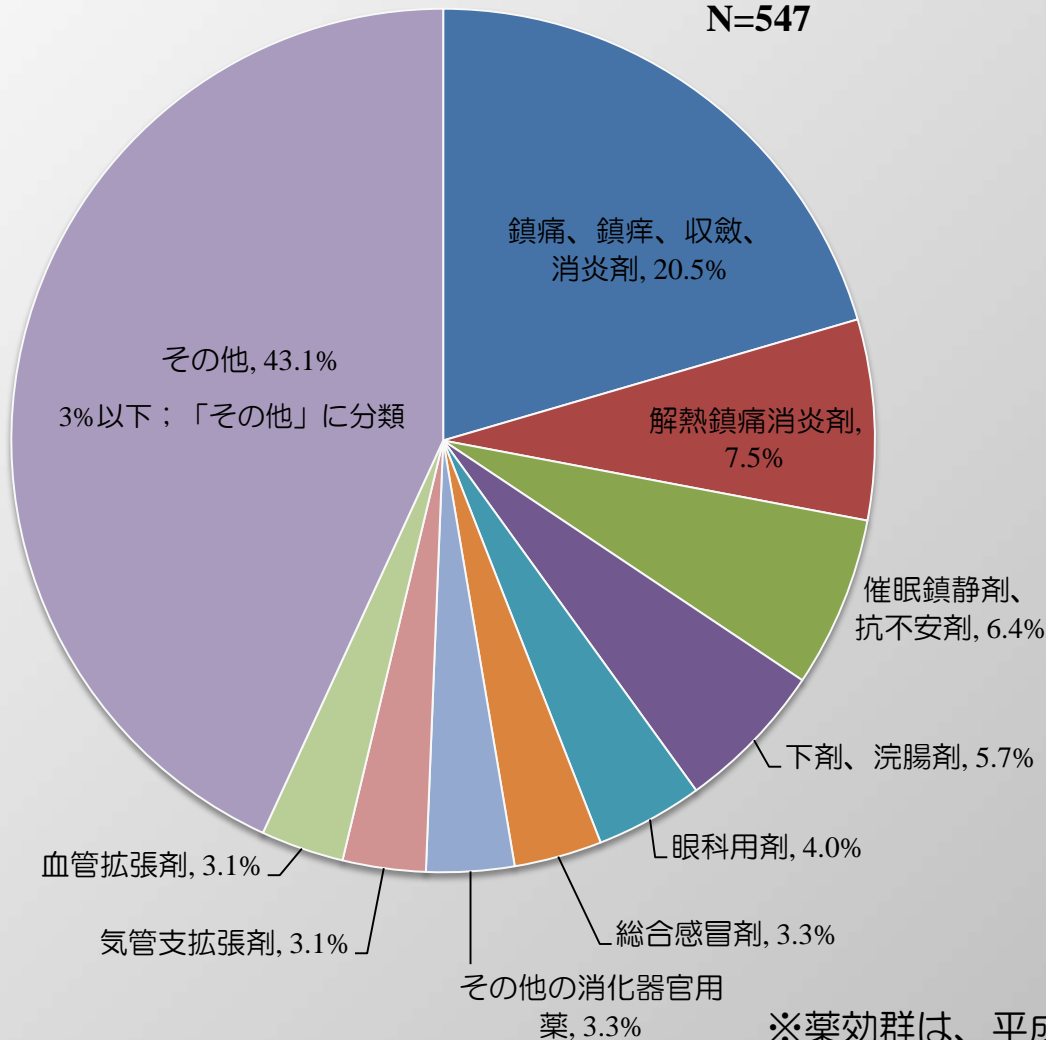
疑義照会内容で多かった項目は、処方漏れ（16.85%）、用法（14.25%）、用量（13.96%）に関する問い合わせであった（H24）。



# 処方漏れが確認された薬効群※

処方漏れが確認された薬効群(H24,H19合算)

N=547



「処方漏れ」に対する問い合わせはH19,H24で合わせて547件であった。鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤が20.5%と最も割合が高かった。このうち、鎮痛消炎剤の湿布が多かった。特にロキソニンパップが多かった。

次に多かった薬効群は、解熱鎮痛消炎剤、催眠鎮静剤、抗不安剤という結果となった。特に偏って多い医薬品はなく、多様な医薬品が該当する結果となった。

※薬効群は、平成24年4月版 保険薬事典（じほう）を基に分類

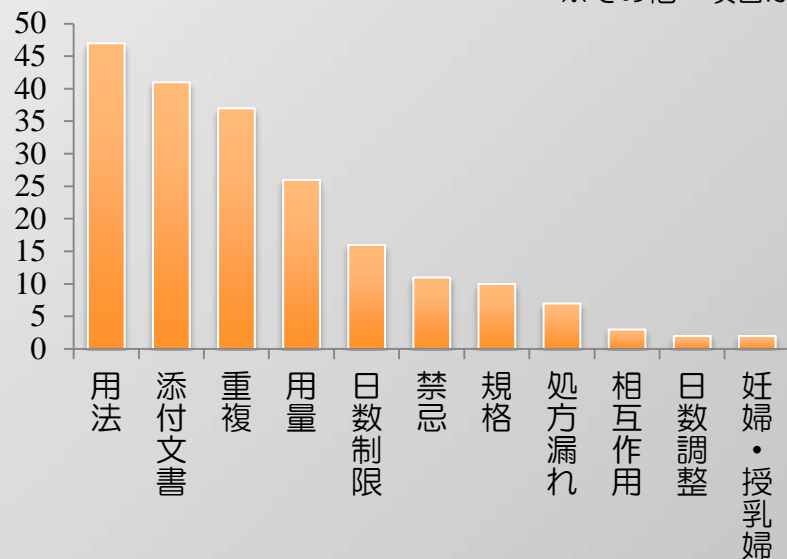
# 疑義照会に対する処方変更の有無

変更件数	件数あり	変更なし
H24	1561	130
H19	1070	90
変更割合 <疑義件数ベース>		
H24	92.3%	7.7%
H19	92.2%	7.8%
変更割合 <処方枚数ベース>		
H24	1.51%	0.13%
H19	1.04%	0.09%

疑義件数ベースにおける変更割合は、H19,H24で大きな差はなく、9割で処方変更があった。  
処方枚数ベースにおける変更割合は、H19,H24でH24の方が0.5ポイント程度高かった。

## 疑義照会をしたが変更されなかった項目（年度合算,件数）

※その他：項目から除外



疑義照会をしたが変更されなかった項目で多かった項目は、「用法」に関する問い合わせであった。

特に、漢方製剤やナウゼリンが食後で処方されていた事例が多かった。

「重複」では、胃腸薬や鎮痛薬が重複していたが、重複を避けて服用するよう回答指示があった。



# 疑義があると判断したツール

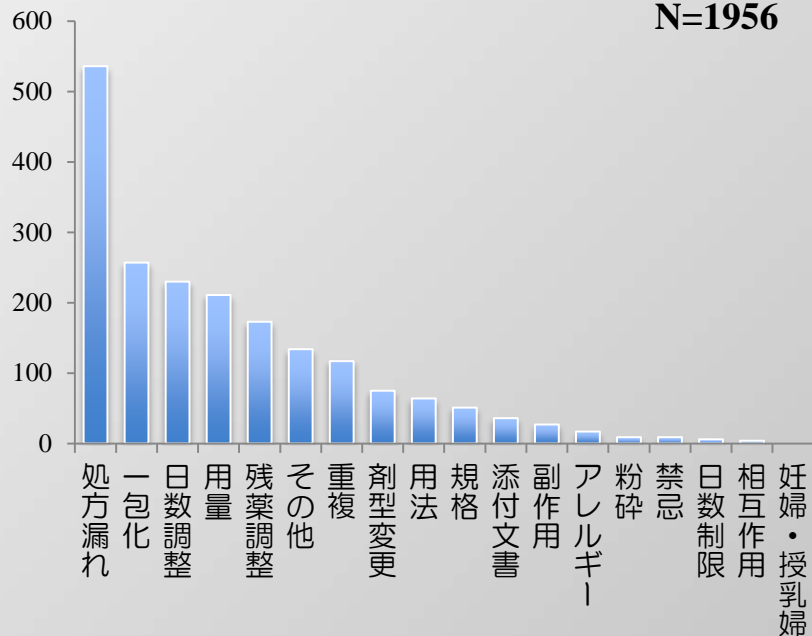
	処方箋	薬歴・服薬指導	その他
H24	31.9%	67.8%	0.3%
H19	32.8%	66.7%	0.5%

疑義があると判断したツールは、処方箋が31.9%、薬歴や服薬指導が67.8%、その他が0.3%であった（H24）。H19,H24における割合に大きな変化は見られなかった。

薬剤師による薬歴管理・服薬指導は、疑義照会に発展するツールとして多くの割合を占めており（約7割）、結果的に、患者に起こりうるトラブル&リスク軽減に寄与していると考えられる。

薬歴・服薬指導で気付いた項目（年度合算,件数）

N=1956



薬歴・服薬指導で気付いた項目は、処方漏れ、コンプライアンス低下による一包化指示追加、日数調整（次回予約日までの処方日数を調整）が多かった。

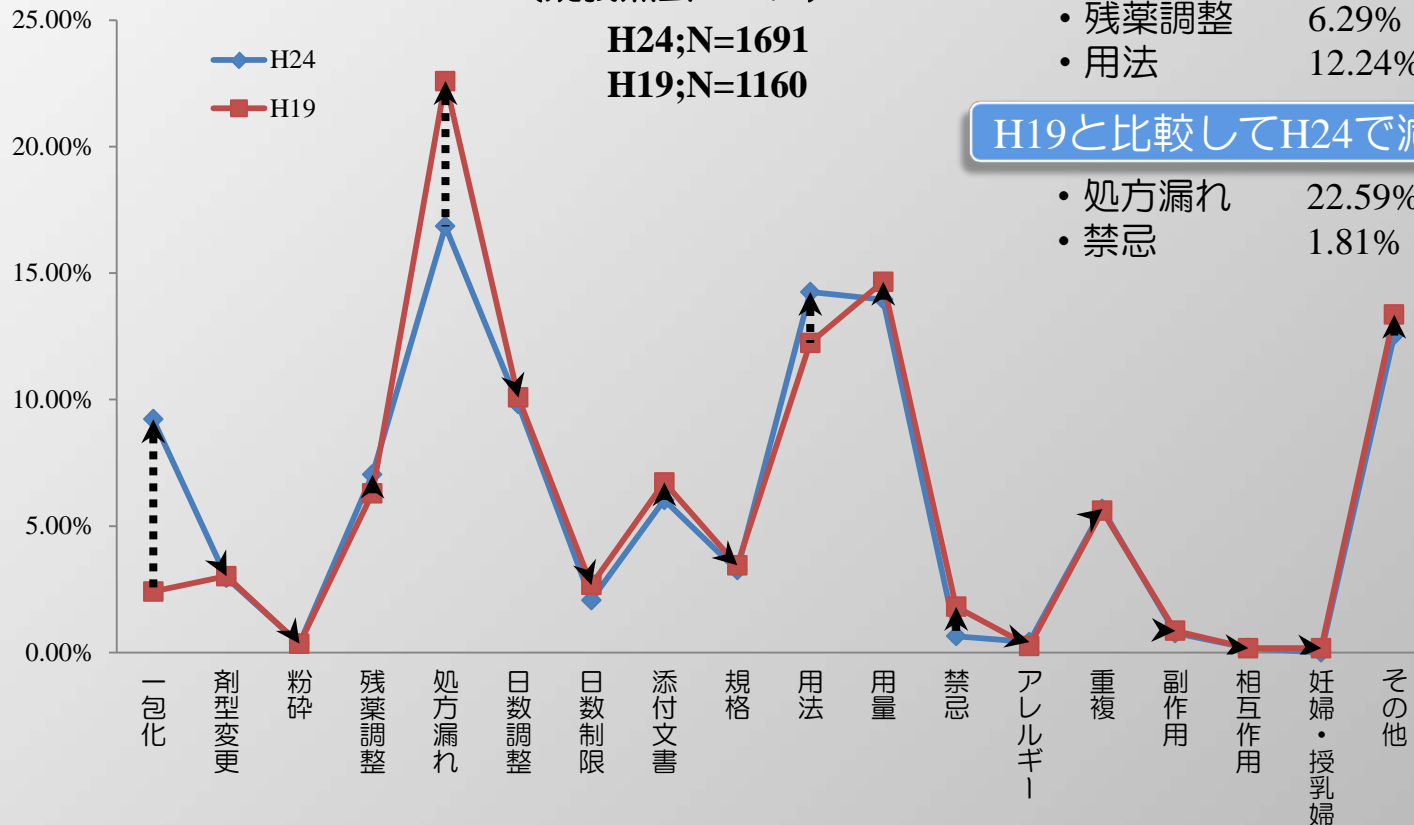
また、件数はそれほど多くはないが、処方箋のみでは把握できない項目として、重複、副作用、アレルギー等によるトラブル&リスクを薬歴管理・服薬指導により事前に免れた。



# 項目別構成比における年度比較

疑義照会項目別構成比における年度比較  
(疑義照会ベース)

H24;N=1691  
H19;N=1160



## H19と比較してH24で増加している項目

- 一包化 2.41% ⇒ 9.23%
- 残薬調整 6.29% ⇒ 7.04%
- 用法 12.24% ⇒ 14.25%

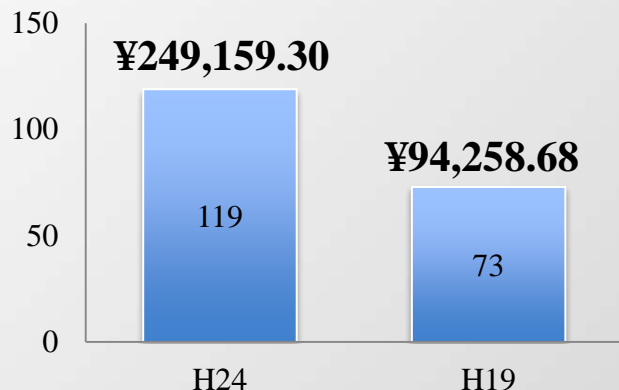
## H19と比較してH24で減少している項目

- 処方漏れ 22.59% ⇒ 16.85%
- 禁忌 1.81% ⇒ 0.65%

年度で比較すると、疑義照会項目別の構成比に構造変化がみられた。最も大きな変化は、一包化で6.82ポイント上昇した。これは、患者のコンプライアンス向上に向けて薬剤師が関与した結果であると思われる。また、残薬調整も0.75ポイント上昇しており、医療費抑制に対して意図的に貢献した結果と思われる。

# 残薬調整に関する疑義照会

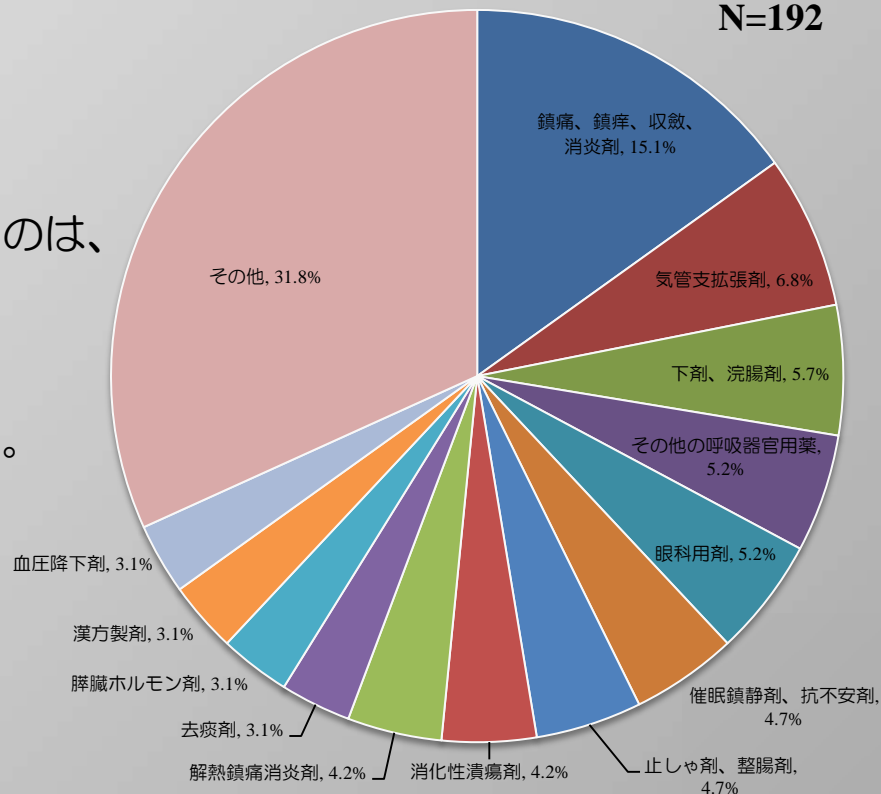
残薬調整件数と年間削減金額



残薬調整による処方変更率は、H19,H24でそれぞれ0.07%、0.11%であった。また、残薬調整により、年間で削減した薬剤料<sup>\*</sup>は、H19,H24でそれぞれ、94,258.68円、249,159.30円であった。さらに、1件当たりの金額で比較すると、1291.2円/件、2093.8円/件でH24の方が高かった。

残薬調整の対象となった薬効別分類 (H24,H19合算)

N=192



<sup>\*</sup>薬剤料は、平成24年4月版 保険薬事典 (じほう) を基に薬価から算出

残薬調整の対象となった薬効別分類で最も多かったのは、「鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」であった (15.1%)。

特に鎮痛消炎剤の湿布が多くを占めた。

「気管支拡張剤」では、ホクナリンテープが多く、「下剤、浣腸剤」では、プルゼニドが多くを占めた。

残薬調整を行った薬効群と、処方漏れが確認された薬効群で「鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」が共に最も多かったことから、残薬調整を行うと、次回処方時、処方漏れのリスクが高まるというような関連性があるのかもしれない。

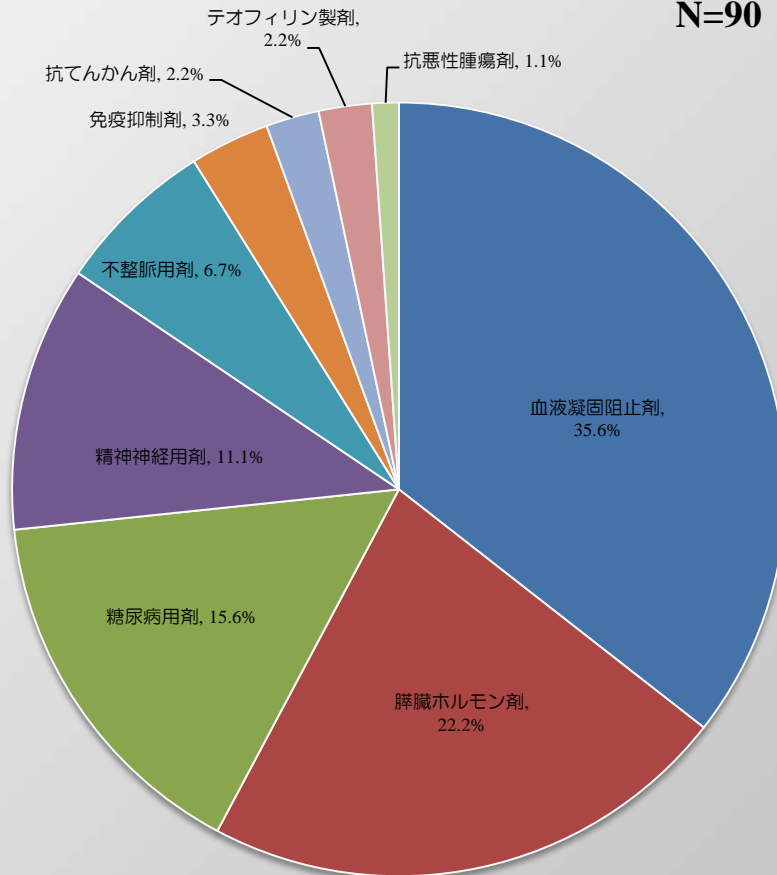
# ハイリスク薬に関する疑義照会

ハイリスク薬	疑義照会件数	割合（疑義照会件数ベース）
H24	90	5.32%
H19	82	7.07%

ハイリスク薬に関する疑義照会件数は、H24,H19でそれぞれ90件、82件であった。

## 疑義照会の対象となった薬効群（H24）

N=90



H24において、ハイリスク薬に関する疑義照会の対象となった薬効群で最も多かった分類は、血液凝固阻止剤であった。その中でも、ワーファリンに関して、処方漏れや日数調整の疑義照会が多かった。また、次に多かった膵臓ホルモン剤では、インスリンの単位に関して、処方内容と患者の訴えとで食い違い、服薬指導時に変更となったケースがあった。

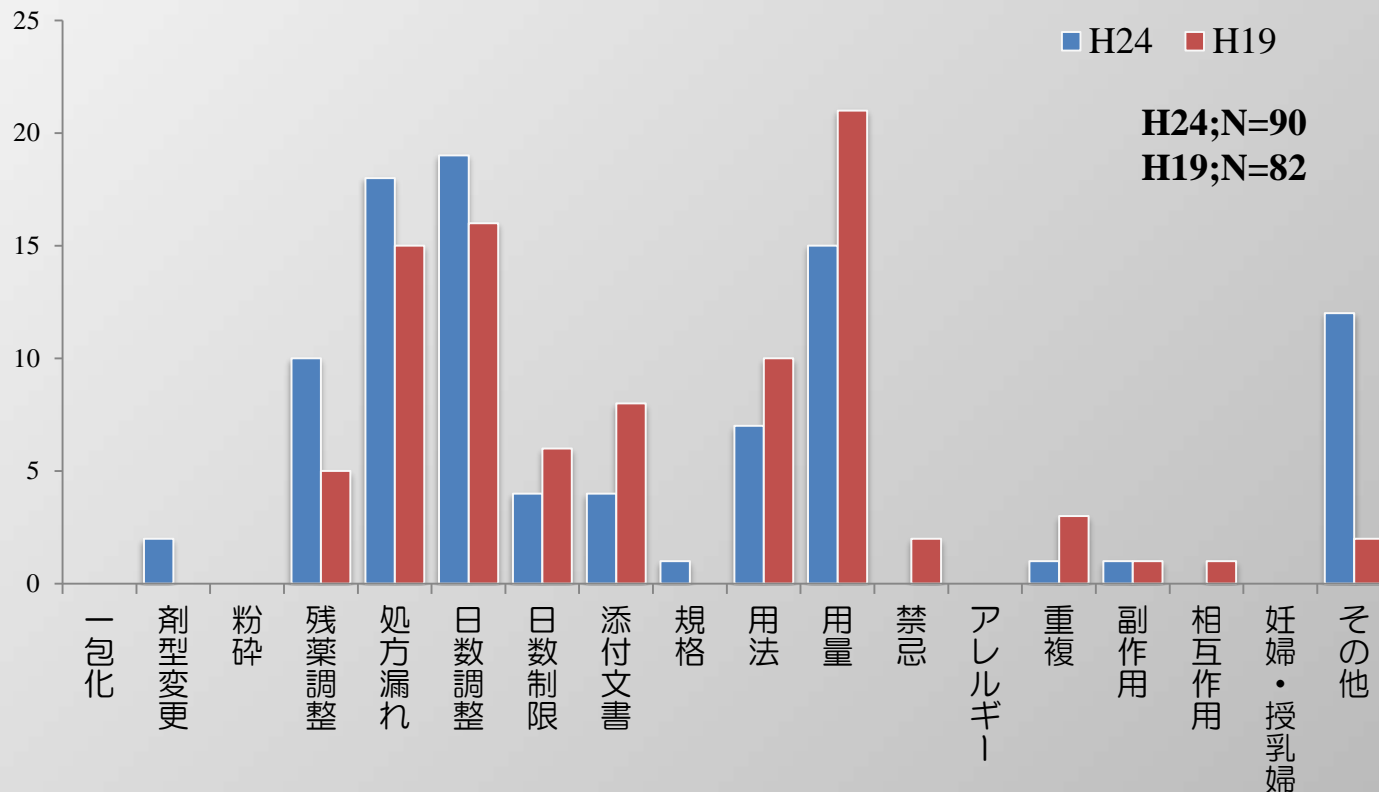
Ex)

ランタスソロスター 8単位→6単位

ノボラピッド (10-10-10) → (8-8-8)

# ハイリスク薬に関する疑義照会

ハイリスク薬に関する疑義照会件数内訳



H19,H24において、日数調整、処方漏れ、用量に関する疑義照会が多かった。処方漏れで多かった医薬品は、ワーファリンであった。また、用量に関する疑義照会で多かった内容は、インスリンの単位や本数に関する内容であった。  
薬剤師のチェック機能により、患者に起こりうるトラブルを未然に防ぐことができた。

# まとめ

経時的変化を分析するために、H19とH24において、疑義照会内容の項目ごとに構成比率を比較した結果、最も大きな変化が確認された項目は、一包化に関する問い合わせであった。

このことは、一包化の有用性を踏まえたうえで、患者のコンプライアンス向上に関与している結果であると考えられる。

また、薬歴や服薬指導により、疑義があると判断した割合が高く、薬剤師による薬歴管理能力と患者との対話力は、医薬分業の意義を確立するうえで重要なスキルであると考えられる。

薬剤師は、リスクマネジメントと医療費削減の両役割を担っており、また、それを広く期待されている。しかし、その一方で、医薬分業の是非そのものを問われているのが現状である。したがって、今後は、国民にとって価値のある医薬分業に関連したエビデンスを創出し、広域に提示していく必要があると考えられる。